

コホミン「みんなの芸術鑑賞会」

公演日：令和8年1月17日（土）

会場：湖北地区公民館 ホール

木戸銭：1000円（当日支払い）

開場：13時 開演：13時30分

申込：12月1日より電話04-7188-4433

もしくは窓口に直接お申込みください

講談

「赤穂義士外伝

忠僕直助（誉の刀鍛冶）」



講談師を詠んだ川柳に「夏はおばけ
冬は義士で飯を食い」というのがありますが、今回は冬の代名詞赤穂義士伝より一席申し上げます。今回は「講談とは？」の説明から申し上げます。
ご来場をお待ち致しております。

講談師
神田董花

Instagram



「かんぴょうを愛でる部屋」公開中

2006年8月 神田すみれに入門

2020年4月 真打昇進

2024年4月栃木県下野市輝け☆エール大使委嘱

東京都内の演芸場を中心に活動中

渋谷のラジオ「渋谷講談」月1程度出演

よみうりカルチャー川口・横浜にて講談教室

よみうりカルチャー川口・北千住にて散歩講座も開催中

趣味は“かんぴょう”に親しむこと。

かんぴょう（夕顔）の加工、調理、カレンダー制作などを行っています。



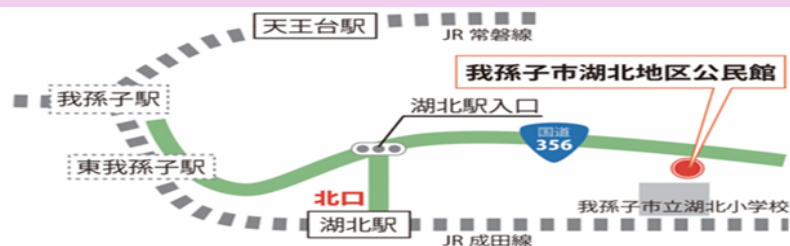
プロフィール

湖北地区公民館（コホミン）

〒270-1122 我孫子市中里81-3

TEL：04-7188-4433

FAX：04-7188-7720



あらすじ

～ 生きがいをつかむ “役に立ちたい” の真心 ～

播州赤穂の城主が浅野内匠頭長矩（あさのたくみのかみながのり）であった時代のこと。毎年八月十五夜にはご城内で月見の宴が催されておりました。この年は殿様が江戸詰めであったため、城代家老の大石内蔵助（おおいしくらのすけ）を上座に酒宴が開かれます。その酒が進むにつれて、殿様がいなかったからでしょうか、家老の一人の大野九郎兵衛（おおのくろべえ）というのが、座興として刀を見せ合おうと言い出しました。九郎兵衛は自慢の刀を持っていたのでわざと鑑定会を持ちかけたのです。まわりの人々は九郎兵衛がそういう奴だと分かっておりましたから、適当に話を合わせて持ち上げてやります。その九郎兵衛が次に標的にしたのは、金奉行を勤めている岡島八十右衛門（おかじまやそうえもん）という人です。のちには四十七士の一人として討入りに加わる実直な人。しかしその誠実さゆえに、小ずるい九郎兵衛とは一度ぶつかったことがあり、常々岡島に恥をかかせてやりたいと思っておりました。赤穂藩の主だった家来たちが集まる満座のなかで九郎兵衛は無理やり岡島の刀を抜きましたが・・・実は岡島には刀を人に見られたくない訳があったのです。

口惜しさを胸に隠し帰宅した岡島を出迎えたのは下僕の直助です。それを知った直助は驚きました。みなし子だった自分を引き取って大事に育ててくれた岡島のために何かできることはないだろうか・・・お金もない、腕もない、身分もない、何にもない直助ですが、どうにかして岡島の恥をそそぎたいと、これから一生懸命に奮闘することになりますが、果たしてそれは実を結ぶのか？！

時代を越えて読み継がれる赤穂義士伝には日本人のあたたかい真心が溢れています。

この続きは会場で読ませて頂きますので、皆様のご来場をお待ち申し上げます。

講談師 神田堇花